

令和2年度文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-公演団体一覧

【C区分団体】

ブロック	分野	種目	公演団体名	対象学年				企画名	演目	複数年度実施
				小(低)	小(中)	小(高)	中			
G・H・I	演劇	児童劇	[C区分]劇団風の子九州	○	○	○	-	「あっかんべー！」は勇気の言葉(「やだ、やだ あっかんべー！」公演)	やだ、やだ あっかんべー！ 作・演出 / あさのゆみこ 音楽・効果 / 曲尾友克 美術 / あさのゆみこ	
F・H	メディア芸術	映像	[C区分]こども映画教室	-	○	○	○	映画鑑賞・映画制作ワークショップ「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～	-	

【A区分・B区分団体】

H	音楽	合唱	東京混声合唱団	○	○	○	○	小・中学生における合唱音楽鑑賞会	(小学生対象)※(中学生対象)プログラムあり ■校歌演奏 ■ 日本のうた／待ちぼうけ(山田耕柁)・地元ゆかりのうた 等 ■ 世界の合唱曲より／夏は来たりぬ(14世紀のカノン) 等 ■ 日本の伝統芸能を素材にした合唱曲－シアターピース－／萬歳流し(柴田南雄) ■ みんなで歌おう／ミュージカルメドレー 「サウンド・オブ・ミュージック」より(ロジャース)等 ■みんなのコーラス／となりのトトロ(久石譲)等	
H	音楽	オーケストラ等	神奈川フィルハーモニー管弦楽団	○	○	○	○	神奈川フィル「ゆめコンサート」オーケストラと共演！	1. ビゼー作曲：歌劇「カルメン」より前奏曲 (省略) 3. オーケストラの楽器の紹介(1種類ごと) 4. 一緒に演奏しよう！(共演) ロジャース作曲：サウンド・オブ・ミュージック [中学校吹奏楽]等 5. 児童生徒作詞作曲：私たちだけの合唱曲 (省略) 7. (アンコール)校歌(オーケストラによる特別編曲の演奏と斉唱) 等	R2 (新規)
H	音楽	オーケストラ等	日本センチュリー交響楽団	○	○	○	○	日本センチュリー交響楽団オーケストラ公演	小学校公演 ※中学校用プログラムあり 【オーブニング】 ビゼー：歌劇「カルメン」より 第一幕への前奏曲 【オーケストラの仲間たち～楽器紹介～】 アンダーソン：ジャズピチカート (弦楽器) 等 (省略) 【管弦楽の響き】チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」より 花のワルツ 他	
H	音楽	オーケストラ等	関西フィルハーモニー管弦楽団	○	○	○	○	Enjoy Discovering the Orchestra！「楽しみながらオーケストラの魅力を発見しよう」	1. ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲 より”スイス軍の行進” 2. モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より”第1楽章” 3. チャイコフスキー：バレエ音楽「白鳥の湖」より”4 羽の白鳥の踊り” (省略) 8 外山雄三：管弦楽のためのラプソディ 他	
H	音楽	音楽劇	堺シティオペラ 一般社団法人	○	○	○	-	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全3幕 日本語上演 原作：グリム童話 作曲：E.ファンパーティング 演出：坂口美里 振付：篠塚瑞桜	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全3幕 日本語上演 原作：グリム童話 作曲：E.ファンパーティング 演出：坂口美里 振付：篠塚瑞桜	
H	演劇	児童劇	人形劇団むすび座	○	○	○	-	～想像力と生きる力を育む人形劇～「アラビアンナイト」で子どもたちに勇気と知恵を！	「アラビアンナイト～魔法のランプと明日のヒカリ～」 脚本／吉田篤司 演出／大野正雄 美術／宮武史郎 作曲／小塚憲二 振付／LONTO(ラストラダカンパニー) 剣術指導／手嶋政夫(RE-act) 衣裳／長谷川真代 衣裳制作／幅上ちさと合唱指導／岡村麻未 照明／若狭慶太(藤井照明) 音響／大塚裕道(ステージヴァンガード) 音楽ディレクター／つつみあつき	
H	演劇	演劇	劇団東京芸術座	○	○	○	○	みんなでチャレンジ 創造体験！	「Challenge・ed(チャレンジ)-違い水の記憶-」 原作／神品正子 脚本・演出／印南真人 作曲／川本哲 照明／矢口雅敏 音響／中嶋直勝 衣裳／山田靖子	
H	演劇	ミュージカル	有限会社 劇団ドリームカンパニー	○	○	○	○	ミュージカルの贈り物～夢みる力・生きる力～	ミュージカル『ハロー、天使です！』 原作：徳満 亮一 振付：石村 昌子 脚本：徳満 亮一 振付：柴崎 康二 演出：徳満 亮一 照明：日高 仁志 音楽：宮崎 漢生 製作：徳満 亮一	
H	舞踊	バレエ	一般社団法人 法村友井バレエ団	○	○	○	○	バレエを学んで体験「くるみ割り人形～クララの夢～」スペシャル公演	第一部 ●「バレエを学んで体験しよう」 バレエレッスン、チャレンジ・バレエ小品紹介、作品のマイムを学ぶ 第二部 ●「くるみ割り人形～クララの夢～」スペシャル公演 作曲：チャイコフスキー、原振付：ブティバ／改訂振付：法村友井バレエ団	
H	伝統芸能	歌舞伎・能楽	公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団	○	○	○	○	絵本語りとともに楽しむ～能「一角仙人(いっかくせんになん)～」	能「一角仙人(いっかくせんになん)」	
H	伝統芸能	人形浄瑠璃	糸あやつり人形一糸座	○	○	○	○	江戸の粋 糸あやつり人形浄瑠璃	■橋弁慶 ■伊達娘恋辞座子―八百屋お七火の見櫓の場― ■東海道中膝栗毛(赤坂並木から卯塔場) 原作：十返舎一九 監修：結城一糸 脚色(生徒出演用)：結城一糸	
H	伝統芸能	邦楽	公益社団法人 日本三曲協会	○	○	○	○	和楽器の魅力	【A】箏と三絃の古典曲 ・歌唱を伴う箏と三味線による古典曲 ・歌唱を伴う箏と三味線に尺八も加わった古典曲(三曲合奏) 【B】尺八の古典曲 【C】晋段音楽科の授業で馴染みのある曲。 児童生徒の合唱との共演も含みます。	
H	伝統芸能	演芸	わんぱく寄席(小学校の場合)・学校寄席(中学校の場合)	○	○	○	○	わんぱく寄席 学校寄席	わんぱく寄席、学校寄席 ・上方落語 笑福亭 呂好 他 ・落語 古今亭 志ん丸 他 ・発表 代表児童生徒の皆さん ・色物 林家 正楽 他 ・落語 入船亭 扇遊 他	

※複数年度実施欄に「H30」の記載がある団体は平成30年度から、「R1」の記載がある団体は令和元年度から、「R2」の記載がある団体は令和2年度から3年間同じブロックで公演を行う団体です。

※<http://www.kodomogeijutsu.go.jp/junkai/kouen.html>から、団体のホームページや現在実施されている令和元年度の情報を閲覧することができます。

Ⅵ 令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業出演希望調書(実演芸術)

分野, 種目 (該当する種目に○を付してください。)

分野	種目
【音楽】	合唱, オーケストラ等, 音楽劇
【演劇】	児童劇, 演劇, ミュージカル
【舞踊】	バレエ, 現代舞踊
【伝統芸能】	歌舞伎・能楽, 人形浄瑠璃, 邦楽, 邦舞, 演芸

申請する区分に, ○を付してください。

A区分のみ・A区分とB区分の両方・C区分

複数申請の有無 (該当する方に○を付してください。)

あり・なし

複数の企画が採択された場合の実施体制 (該当する選択肢のいずれかに○を付してください。)

- (1) 公演の実施時期が重複しても, 複数の企画を実施可能
 (2) 公演の実施時期が重複しなければ, 複数の企画を実施可能
 (3) 提案したいいずれか1企画のみ実施可能
 (4) その他 ()

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあいげきだんかぜのこきゅうしゅう 企業組合劇団風の子九州		
代表者職・氏名	代表理事 仮屋 祐一		
制作団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新 5 丁目 5-13 (最寄り駅・・・福岡市営地下鉄空港線 西新駅)		
電話番号	092-841-7889	F A X 番号	092-841-7896
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこきゅうしゅう 劇団風の子九州		
代表者職・氏名	代表 仮屋 祐一		
公演団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新 5 丁目 5-13 (最寄り駅・・・福岡市営地下鉄空港線 西新駅)		
制作団体 設立年月	1985 年 4 月		
制作団体 組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 仮屋祐一 理事 浅野由美子 理事 川島二郎 理事 中嶋 司 監事 矢野ひとみ	【創造部・・・15 名】 浅野由美子、川島二郎、中嶋 司、小池勇治、玉木聡美、 岩永ひろこ、井上真利、小山 隼、山口咲希、高山洋輝、 浦 美佳、寺崎花絵、稲永清音、寺尾実里、赤瀬美桜 【企画経営部・・・6 名】 仮屋祐一、鈴木恵美、矢野ひとみ、上村 洋、田川智士、 村垣洋子 加入条件等・・・18 歳以上の健康な人 (面接・オーディションあり)	

事務体制の担当	専任 ・ 他の業務と兼任		本事業担当者名	仮屋 祐一
経理処理等の 監査担当の有無	有 ・ 無		経理責任者名	鈴木 恵美
制作団体沿革	企業組合劇団風の子九州は、1985 年東京の劇団風の子から運営独立し「劇団風の子九州班」として福岡市に創立され、その後 1993 年に法人独立し現在に至る。 児童・青少年演劇の制作と上演・普及活動を行っている。			
学校等における 公演実績	【2018 年度公演実績】 小学校公演：5作品149日 185ステージ 幼稚園・保育園公演：8作品130日 140ステージ 子ども劇場公演：8作品46日 51ステージ その他(行政、学童保育、児童館、自主公演等)：12作品118日 124ステージ 計 500ステージ			
特別支援学校に おける公演実績	【福岡県】 福岡中央特別支援学校、南福岡特別支援学校、福岡県立特別支援学校北九州高等学園、嘉穂特別支援学校、 【長崎県】 鶴南特別支援学校、大村特別支援学校 【宮崎県】 みなみのかぜ支援学校、赤江まつばら支援学校、清武せいりゅう特別支援学校、くろしお支援学校、児湯るびなす支援学校、みやざき中央支援学校 【長崎県】 川棚特別支援学校、希望ヶ丘高校特別支援学校、諫早東特別支援学校、諫早特別支援学校、島原特別支援学校、大村特別支援学校、鶴南特別支援学校 【沖縄県】 島尻特別支援学校、宮古特別支援学校 ほか公演実績多数 【福島県】 大笹生支援学校 ほか公演実績多数			
参考資料の 有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有 ・ 無	
		申請する演目の DVD または WEB 公開資料	有 ・ 無	
		※公開資料有の場合 URL	DVDを提出します。 また、下記の URL からニュースに取り上げられた映像の視聴が可能です。 https://youtu.be/PBCbKqUaYfM	
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: なし PW: なし	
	A の 提出が 困難な 場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容の DVD または WEB 公開資料	有 ・ 無	
		※公開資料有の場合 URL		
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: PW:	

公 演 ・ ワークショップの内 容

【公演団体名 劇団風の子九州 】

対 象	小学生(<u>低学年・中学年・高学年</u>) ・ 中 学 生				
企画名	「あっかんべー！」は勇気の言葉 (「やだ、やだ あっかんべー！」公演)				
本公演演目	やだ、やだ あっかんべー！				
原作／作曲 脚 本 演出／振付	作・演出 / あさのゆみこ 音楽・効果 / 曲尾友克 美術 / あさのゆみこ 公演時間(75 分)				
著作権	-	制作団体が 所有	○	制作団体以外が所有する事 項が含まれる	有 (制作団体以外が所有す る事項が含まれる場合) 許諾の有無
演 目 概 要	【あらすじ】 山あいに住む一人暮らしのおばあちゃんの家に移ってきた内気な小学 4 年生の智(とも)。しかし智は本当は引越してきたくありませんでした。すごい田舎だし、お化けみたいなおばあちゃんがいるし…。 ある日、智がおばあちゃんの家を探検しているとどこからか声が聞こえてきました。おばあちゃんの独り言かなと思っていたら…!? 泥棒? おばけ? 実はおばあちゃんの家には妖怪あまのじゃくのジャクが同居していました。 智と友達になったジャクですが、なんだか段々弱ってきました。その原因は裏山の開発とそこに住まう妖怪土蜘蛛が関係していました。智はジャクを救うために裏山へ走り出しました。はてさて、智はジャクを無事救うことができるのか? 【作品への思い】 かつて子供たちは群れて遊びを生み出し、人と人との関係も遊びの中で学び、ごく自然に身につけていったように思います。それは正に <u>生きていく力を蓄える大切な時間</u>。 しかし今、その大切な時間を持ちにくい社会へとますます拍車が掛けられて来ているように感じます。そしてその影響は自己肯定感の低い、心の不安定な子供たちを生み出しています。 都会での生活を送ってきた「やだやだ」が口癖、何をやってもダメと思っているこの物語の主人公・智。智は物凄い田舎に引越してきて、おばあちゃんや妖怪たちとの出会い、自然の中の生活体験を通して少しずつ強い心が育まれていきます。そしてとうとう、友だちジャクの角を取り戻すために恐ろしい土蜘蛛のところへ走り出します。 私たちはこの作品を通して子供達に、子供時代を子供らしくたくましく、<u>困難にも真正面から立ち向かっていく勇気、生きていく希望</u>を感じてもらいたいと考えます。 【キーワードのせりふ】 おばあちゃん / 「<u>よかよか。智は「智の時間」を歩いとると。人と比べてもつまらん。智がゆっくり歩きたいならそれでよか。ばあちゃんだって、ばあちゃんの時間を歩きよる。誰にも邪魔させんよ。</u>」 (行き過ぎた競争社会にあおられて自分を見失いがちになる <u>子供達へ最高のメッセージ</u>です。) おばあちゃん / 「<u>ばあちゃんは「あっかんべー」ってすると心がスーッと元気になると。ほれ、智もやってみらんね。</u>」 (自己肯定感の無さから、嫌なことも嫌といえず自分の気持ちを友だちに対して、表現し				

	づらい現代の子供達に送るかわいらしい <u>魔法の言葉「あっかんべー」</u>。終演後はいつとき学校ではやるそうです。) ＊ 社会保障審議会推薦児童福祉文化財(舞台芸術) ＊ 令和元年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-採択作品
演目選択理由	＊ 最近、教育現場の先生方から不登校や保健室登校の低学年化が進んでいると聞きました。思春期に入る前から自己肯定感が少なく、友だちとコミュニケーションをとりづらい子供たちが増えてきているとの事。 主人公の智も同じで何事にも「やだやだ」が口癖ですが、物語が進行するにつけ友達のために勇気ある行動を取り始めます。智のようなおとなしい子供たちにはちょっとした勇気を、強い子供たちにはおとなしい友だちへの共感を学んでもらい、<u>コミュニケーション能力の育成</u>を図りたいと考えます。 ＊ この事業の目的の一つ「発想力の育成」は体験や模倣から鍛えられます。子供達の感想文に「4 人だけで劇をしていたけど 10 人ぐらい人がいるように思いました。」とか、「あんな劇とか歌を4人でするのがびっくりしました。」とあります。この演目は、様々な役が登場しますが、4人の俳優だけで楽しいキャラクターをスピーディーに演じ分けるために様々な仕掛けが用意されています。 また、大道具はシンプルで、センターの二畳の平台と自在に変化する4本の柱だけです。ある時は森の中、ある時はおばあちゃんの家にと様々な場面に瞬時に変化し、子供達の想像力を刺激します。このような驚きや刺激が <u>発想力の向上</u>の素となり、舞台芸術への興味と、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につながると考えます。
児童・生徒の共演，参加又は体験の形態	＊ 可能であれば、二場面に出演してもらいます。(学年は主人公と同じ4年生がベスト) <u>場面①</u> おばあちゃんの家に移ってきた智がよく一人で遊びに行く森の中。三人の俳優たちが、森の中の様子をマイムで表現しますが、その中の表現(蝶、枯葉、水溜り、コスモス、トンボ)と一緒に演じてもらいます。<u>上限6名</u>





場面② エンディング。俳優たちと一緒にテーマソングを歌い、踊ってもらいます。

上限 20 名程



出 演 者

川島二郎、高山洋輝、浦 美佳、寺尾実里

公演出演予定者数
(1公演あたり)

出 演 者: 4 名
ス タ ッ プ: 0 名
合 計: 4 名

機 材 等
運搬方法

マイクロバス 車長 7m
台 数 1台

公演に当たっての 会 場 条 件	実施条件等確認書①をご確認ください。																	
会場設営の所要 時間(タイムスケ ジュール)の目 安	前日仕込み(有・ <u>無</u>) 会場設営の所要時間(2 時間 30 分程度) <table border="1"> <tr> <th>到着</th><th>仕込み</th><th>リハーサル</th><th>本番</th><th>撤去</th><th>退出</th></tr> <tr> <td>8:30</td><td>8:30～11:00</td><td>11:30～12:15 午前 4 限目</td><td>13:30～14:45 午後 5,6 限目</td><td>15:00～17:00</td><td>17:00</td></tr> </table> ↑ *4 時限目に出演する子どもたちとのリハーサルが入ります。 ※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時 30 分からの概ね2時限分程度です。 * <u>午前公演(前後の日程により可能)の場合は、前日3時間程度の仕込、当日は、1 時限目リハーサル、3,4 時限日本番、15:00 搬出完了</u>						到着	仕込み	リハーサル	本番	撤去	退出	8:30	8:30～11:00	11:30～12:15 午前 4 限目	13:30～14:45 午後 5,6 限目	15:00～17:00	17:00
到着	仕込み	リハーサル	本番	撤去	退出													
8:30	8:30～11:00	11:30～12:15 午前 4 限目	13:30～14:45 午後 5,6 限目	15:00～17:00	17:00													
児 童 ・ 生 徒 の参加可能人数	ワークショップ	4年生全員																
	本公演	場面①6名まで 場面②4年生全員(～20 名程)																
ワークショップ 実 施 形 態 及 び 内 容	* 出演場面の練習が主になるので、主人公と同学年の4年生に参加してもらいます。 <u>ワークショップの流れ</u> ① 劇団の自己紹介をします。 ② リラックスするために最初にちょっとした表現ワークをします。 ③ お芝居のあらすじを紙芝居仕立てで話します。 ④ ニグループに分かれます。可能であれば別々の場所での練習。 ☆ <u>場面①チーム</u> 選抜の6名ほどと、劇中に登場する花や虫等の身体表現の練習をします。 ☆ <u>場面②チーム</u> エンディングの歌とダンスの練習をします。 (ちなみに、場面①チームはこの日は歌とダンスの練習は出来ませんが、後日学校で練習して公演当日、出演することは可能です。) ⑤ 最後に、お互いのチーム毎に、この日の練習の成果を見せ合います。																	
ワークショップ 実施形態の意図	子供たちは思春期の入り口にさしかかる頃、自我の目覚めと共に他者からの目を意識し始めます。そのことにより人前に立つ、または人前でしゃべる、ましてや人前で演じるということに相当なプレッシャーを感じる子どももいます。そこで、演劇とは「ごっこ遊び」や「まねっこあそび」の延長であり、今回の舞台表現は「<u>遊びとして楽しんで、思いっきり演じてほしい。</u>」と伝えるためのワークを心がけます。 ① 劇団との初めての出会いなので、お互い緊張感を取り除くために、体育館いっぱい動き回れる表現ワークを行います。 ② 演目の全体像が想像出来るように、あらすじを説明して、子どもたちが登場するシーンがどのような意味合いがあるのかをイメージしてもらいます。 ☆ <u>場面①チーム</u> セリフがない身体表現です。一人ずつ表現するのではなく、友達同士合体して																	

	表現するので、恥ずかしさも薄れ、友だちと協力して <u>表現する楽しさが育成できます。</u> ☆場面②チーム 歌とダンスを楽しく表現できるような指導を心がけます。体育館フロアーに実際の舞台の寸法を記し、客席からの登場方法、実際の踊る位置、退場の仕方なども練習して、<u>子供達の不安を取り除く努力をします。</u> ③ 最後にお互いのチームで見合うことにより、相手チームの頑張りや、日常とは違う友達の表現に刺激を得て、自分や自分たちのチームを省みることになり、本番当日までの練習に <u>やる気を持って向かう</u> ことが出来るようになります。
特別支援学校での実施における工夫点	二回の体験場面は原則として実施できるように工夫しますが、各校、各子どもたちにより被支援の状況が異なるので先生方と綿密な打ち合わせを行い、表現方法の可能性を探っていきます。例としては、全員で鳴り物を持ってリズムをとりながら歌い、先生方が車椅子に一人ずつ付いての車椅子ダンスを披露したこともあります。
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。

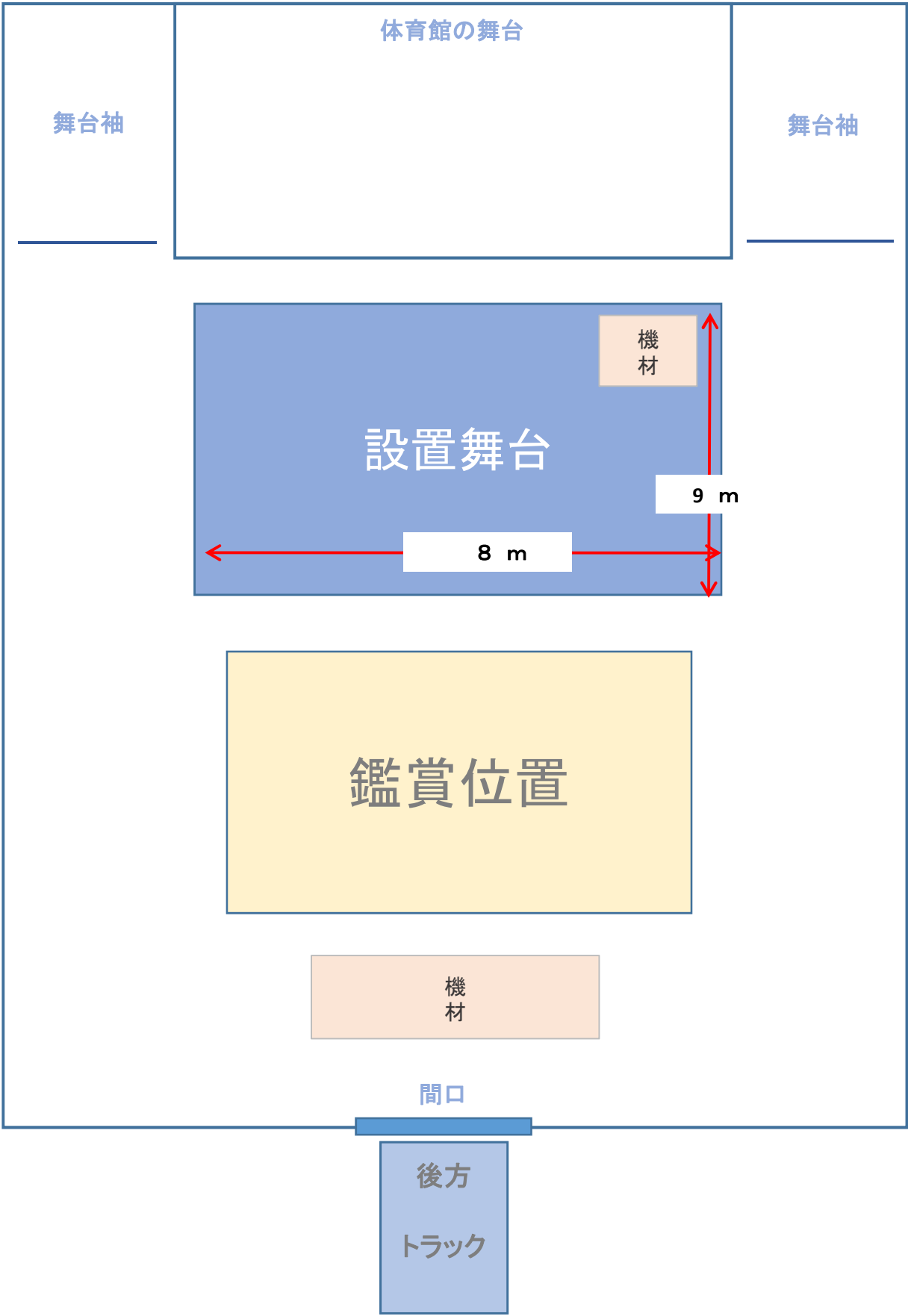
【令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K124	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	K	区分	C区分
公演団体名	劇団風の子九州				制作団体名	企業組合 劇団風の子九州			

① 会場条件等についての確認

項目	応相談	必要条件等									
控室について	可	必要数 *	1室	条件			体育館ステージが控室として使用できない場合は1室必要です。				
搬入について	不可	来校する車両の大きさと台数 *				中型バス 1台					
	不可	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ				マイクロバス(長さ6.99、幅2.03、高さ2.58)m					
	可	搬入車両の横づけの要否 *				要					
	可	横づけができない場合の搬入可能距離 *				問わない					
	可	搬入経路の最低条件				・雨の場合、道具が濡れない経路が望ましい。					
		理由				音響器材、照明機材、大道具等がある為。					
	可	設置階の制限 *				問わないが、1階が望ましい。					
	不可	搬入間口について 単位:メートル		幅	1.8m		高さ	1.8m			
WSについて	可	参加可能人数			40名程度まで						
	可	学年の指定の有無 *			あり	指定学年 *		小学校4年生			
	可	所要時間の目安 単位:分			85分程度(途中休憩あり)						
本公演について		会場設営・本公演・メインプログラムの 所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイム スケジュール)」の目安をご参照ください。						
	可	鑑賞可能人数			200名程度まで						
	不可	舞台設置場所 *			フロア						
	不可	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	8m	奥行	9m	高さ	3m		
	可			舞台袖スペースの確保 *			要				
	可	体育館の舞台を使用する 場合の条件		舞台袖スペースの条件 *			着替えられるスペースがあれば良し				
	緞帳 *			無くても可能		バトン *	不要				
	可	遮光(暗幕等)の要否 *			要	理由	完全遮光でなくても公演可能。一 部分でも構いません。要相談。				
	—	ピアノの調律・移動の要 否		指定位置へのピアノの 移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面に て御確認ください。				
	ピアノの事前調律 *			不要							
	可	フロアを使用する場合の 条件		バスケットゴールの設 置状況 *		格納されていれば可					
	可	公演に必要な電源容量			60A		※主幹電源の必要容量				
		その他特記事項									

会場図面(表記単位:メートル)



搬入間口について	幅	1.8m	高さ	1.8m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

感想文

すごく、かんどしました。はじまったときに、おどりがおもしろかったです。ともおねえちゃんとじゃくが、すごかったです。(1年生・男子)

心にのこったところは、うたがここにのこりました。(2年生・男子)

さい初は、どんなげきがあるのかワクワクしていました。すごく面白いげきでした。おばあちゃんと、じゃくが一番面白かったです。土ぐもは、最初コワイイメージだったけど、本当はやさしいんだなあとと思いました。終わった時、また見たいなと思いました。(3年生・男子)

ぼくが、一番心に残った場面は、ともちゃんが、じゃくの角を命がけで取ってきて、じゃくを助けるところです。なので僕もこまっている人がいたら、ともちゃんみたいに助けてあげたいです。(4年生・男子)

私は「あっかんべーをすると負けな気持ちになるんだよ」というおばあさんのセリフを聞いて、「これだ!」と思いました。くやしいけどあきらめようという時はたくさんあります。そんな時でもあっかんべーをして負けなぞという気持ちになろうと思いました。来年も来てください。(5年生・女子)

女の子は、学校にあんまり行ってなかったけど、鬼の角を友達と一緒に取り戻して、最後は、学校にいてみようかなといったのが、心に残りました。(6年生・女子)

一人の人が色々な役をこなし、台詞覚えも大変なことだろうと思いました。子ども達への劇ですが、人に対する思いやり、優しさもメッセージとして込められていたし、人の生き方までも示されていたなあとと思いました。また、人と自然との共存ということもテーマだったのではないかなあとと思いました。今日は、何かわかりませんが、最後のほうでは感動してしまい、自然に涙が出てしまいました。一年生の子も達もすごく楽しんでいました。(先生・女性)



劇団紹介

■日本児童・青少年演劇団協同組合加盟 ■全国児童・青少年演劇協議会加盟
■アシテジ(国際児童青少年演劇協会)加盟

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。

“子どものいるところ、どこへでもとんでいく”を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

’90年からは国内だけでなく、韓国、中国、インドネシア、パキスタン、インド、オーストラリア、シンガポールなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人達との交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演作品「マンナム」を創り上演してきました。アシテジ(国際児童青少年演劇協会)の国際フェスティバル in ソウルでは日本代表としても参加しました。

これからも地域で、“子どもたちと共に未来を創る劇団”として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し広げていきたいと思います。



劇団風の子九州

〒814-0002 福岡市早良区西新5-5-13
TEL092-841-7889 FAX092-841-7896
ホームページ: <http://www.kazenoko-kyushu.or.jp>
E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp

■北海道事務所011(726)9611 ■東北事務所0241(23)0612 ■首都圏事務所042(652)1001 ■中部事務所058(215)7761 ■関西事務所075(957)0502 ■中国事務所082(870)0215

やだ、やだ あっかんべー!



劇団風の子九州

作・演出/あさの ゆみこ 音楽・効果/曲尾 友克 美術/あさの ゆみこ 制作/矢野 ひとみ

やだ、やだ あっかんべー!

あらすじ

山あいに住む一人暮らしのおばあちゃんの家へ、引っ越してきた小学校4年生の女の子智。でも智は引っ越して来たくありませんでした。すごい田舎だし、お化けみたいなおばあちゃんはいるし…。すこし内気な智は、おばあちゃんとも転校したばかりの小学校にもなじめず、学校に行かなくなってしまいました。ある日、おばあちゃんの家を探検していると、声が聞こえます。「おばあちゃん、年だから独り言がおおいのかな?」と、思っていたら、独り言じゃなかったのです。泥棒? お化け? 不思議なおばあちゃんと謎の同居人。そして裏山にはまだまだ、なにか潜んでいるようです。それは、妖怪…。ひょんな事から、その妖怪を救うことに!? はてさて、内気な智は妖怪を救うことができるのか? さあ、冒険のはじまりはじまり!

演出の思い

最近、『自己肯定感』という言葉をよく耳にします。「自分はかけがえない存在」と思える気持ちのことだそうです。今、この『自己肯定感』が低くなってきていると言われています。私は中高生と出会う機会がありますが、一人一人の『自己肯定感』の高い、低いがわかるわけではありません。でも、この頃、不安定な子どもたちが多くなってきているように感じます。心の中が満たされていないような、ポツカリ穴が開いているような。そして、誰かに自分を認めてほしいと思っている。この物語の主人公もそうです。なにをやってもダメと思っている智は、体験をすることで強くなっていきます。私たち大人や社会が、子どもたちの体験を奪わないようにしたいものです。そして、体験を通し、ありのままの自分を受け入れ、『私の時間』を歩いてほしいと願っています。

あさのゆみこ

制作にあたって

困難にも真正面から立ち向かっていく勇気を!!

異年齢で、毎日のように外遊びする子どもたちの姿が見られなくなってきたと言われ始めておよそ四半世紀以上は経つでしょうか。

競争社会の波にのまれ、ますます塾や習い事に忙しく、合間の時間を利用し、ゲーム機に没頭する子どもたち…

かつて群れて遊びを生み出し、人と人との関係作りも遊びの中で学び、自然と身に付けていったように思います。それは、まさに生きていく力を蓄える大切な時間。その大切な時間が、ますますできにくい社会へと、より拍車がかけて来ているように思います。

子ども時代を子どもらしく、たくましく、困難にも真正面から立ち向かっていく勇気、生きていく希望を、この作品を通して感じてもらえたらと思います。

矢野ひとみ



内気な女の子、智ちゃん。転校してきた学校には、なかなかなじめません。行きたくない…。



ある日おばあちゃんの部屋をのぞいてみると…どこからともなく声が…誰? どちら? ほう? ほう?



おばあちゃん家の裏山にひそむ妖怪きつねのゴン姉さんとサトリ



裏山にひそむ妖怪土蜘蛛。2人の運命は…?



キャ〜気持ち悪い〜何笑ってるの〜?



何やら見つけたゴン姉さん。いったい何をするつもり…



そう〜とそう〜と気をつけて!!

この作品に登場する妖怪たち



サトリ

獣のような姿の妖怪、読心術のように人の心を覗いて話しかけてくる。



おまのじゃく

悪鬼神、小鬼、物まねがうまく他人の心を操るのにたけている。



狐

人間に化けたり、人に乗り移って病気をもらったりする(水溜りや木の葉や馬の歯などを誰かに載せて化ける)。



人面樹

山中にあつてその花が人の顔に似ており、しきりに笑うが、笑うと落下してしまふ。



カッパ

川や池などの水界に住む、妖怪の童子の姿としておかつば頭に皿のようなものがあつて、そこにいつも水をたたえている。

Ⅷ 令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業」出演希望調書(メディア芸術)

分野, 種目(該当する種目に○を付してください。)

分野	種目
【メディア芸術】	映像, メディアアート等

申請する区分に, ○を付してください。

A区分・C区分

複数申請の有無(該当する方に○を付してください。)

あり・なし

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当する選択肢のいずれかに○を付してください。)

- (1) 公演の実施時期が重複しても, 複数の企画を実施可能
 (2) 公演の実施時期が重複しなければ, 複数の企画を実施可能
 (3) 提案したいいずれか1企画のみ実施可能
 (4) その他()

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
制作団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒158-0084 東京都世田谷区東玉川 1-32-23 こども映画教室事務局 【最寄駅】 田園調布駅		
電話番号	03-6313-1641	FAX番号	03-6313-1641
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
公演団体所在地 (最寄り駅・バス停)	同上		
制作団体 設立年月	2013年4月 (2019年1月一般社団法人化)		
制作団体 組織	役職員 土肥 悦子(代表理事) 諏訪 敦彦(専務理事) 藤岡 朝子(理事) 原 悟(理事) 林 知一(理事)	団体構成員及び加入条件等 団体社員 土肥 悦子／諏訪 敦彦 従業員(事務局) 浅見 孟 団体社員加入条件: 社員総会での協議の上、加入	

事務体制の担当	専任 ・ 他 [○] の業務と兼任	本事業担当者名	浅見 孟
経理処理等の 監査担当の有無	[○] 有 ・ 無	経理責任者名	土肥 悦子
制作団体沿革	2004 年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢 21 世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催) 2013 年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。 2013 年から 2018 年までの6年間で 40 回の映画に関するワークショップを行った。 活動地域は、東京・横浜・川崎・福島・弘前・高崎・上田・豊田・奈良などに広がっている。 2015 年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催) 2017 年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100 歳の青春)」に、世界で 15 カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。 2019 年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。		
メディア教育に おける活動実績	2013 年 8 月 横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「こども映画教室@横浜 2014」実施 (2014 年、2015 年、2016 年も実施) 2014 年 6 月 世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて 「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催 11 月 〈こどもと映画制作〉しんゆり映画祭シンポジウム招聘・登壇 2015 年 1 月 映画と教育についてのシンポジウム 「こどもが映画と出会うとき」主催(以降毎年主催) 1 月～3 月 横浜市立新田小学校 「こども映画教室@新田小学校」を (総合の時間・国語などの授業で)開催 2 月 「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古」にて 「こども映画教室と創造的な場づくりについて」講義・登壇 7 月 「全国映連第 44 回 映画大学 in 今治」にて 「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇 10 月 山形国際ドキュメンタリー映画祭にて 「こどもと映画」シンポジウム招聘・登壇 2016 年 6 月～10 月 お茶の水女子大学附属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施 2019 年 3 月 平成 30 年度国際交流基金海外派遣助成事業として 「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施。 チリのチリ大学において、「映画は学校だ! 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 2019 年 6 月～11 月 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業ー巡回公演ー」実施		
特別支援学校に おける活動実績	「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業ー巡回公演ー」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこなった		

参考資料の有無	A	申請する企画のチラシパンフレット等	☒ 有 • 無
		申請する企画の DVD または WEB 公開資料	☒ 有 • 無
		※WEB 公開資料有の場合 URL	https://youtu.be/zpVtDDjkt1w https://www.kodomoeiga.com/2019 https://www.kodomoeiga.com/blank-9
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: PW:
	A の提出が困難な場合	今回申請する企画に近い活動を記録した DVD または WEB 公開資料	☐ 有 • 無
		※WEB 公開資料有の場合 URL	
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: PW:



2019 年度開催の公演の様子は
上記 QR コードからご覧いただけます。

メインプログラム・ワークショップの内容

【公演団体名】こども映画教室

対 象	小学生(低学年・ 中学年 ・ 高学年)・ 中学生										
企 画 名	映画鑑賞+映画制作ワークショップ 「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～										
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>ワークショップ1回 → メインプログラム</td></tr> <tr> <td></td><td>ワークショップ2回 → メインプログラム</td></tr> <tr> <td>○</td><td>ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ</td></tr> <tr> <td></td><td>メインプログラム → ワークショップ2回</td></tr> <tr> <td></td><td>メインプログラム → ワークショップ1回</td></tr> </table> 【全体の流れ】 1日目【ワークショップ1回目】(70分) ① 導入・講師紹介・今日すること(5分) ② 「映画鑑賞」:鑑賞作品『赤い風船』上映(35分/1956年/フランス) ③ 鑑賞ワークショップ 「映画の中の「赤い風船」の気持ちを想像してみよう」(30分) 生きていない風船がまるで生きているように動き、少年との信頼関係や友情を結んでいく映画。しかし、風船の気持ちは映画の中では語られないので、風船が悲しい、嬉しいと思っていると感じているのは鑑賞している人。そこに気づいてもらうワーク 1)5人のチームに分かれて映画に登場した人物、場所、出来事を思い出し、付箋に書き出す 2)映画の流れを描いた映画のタイムラインシートに、さきほどの人物、場所、出来事の付箋をそれらが映っている場所(時間)に貼る 3)赤い風船がどんなきもちだったのか、風船型のカードに書き込み、タイムラインシートに貼る 4)他のチームのタイムラインシートを鑑賞して、人との違いを発見する 【メインプログラム】(140分 ※休憩含む) ④撮影ワークショップ(100分) 『赤いボールの冒険』という映画を撮ってみよう 1チーム5名に分かれ、1チームにつき1分の映画を撮影し、最後にそれを1本の映画にするプログラム 1)鑑賞ワークで最後にやった、風船の気持ちを描いた風船型のカードの中から、各チーム1枚を選ぶ 2)そのカードに書かれた「気持ち」が『赤いボールの冒険』というこどもたちが作る映画のなかの主人公赤いボールの気持ちとなる。風船型のカード●のゴムの部分を切り取り、ボール型のカード●にする 3)『赤いボールの冒険』ルールブックの説明(撮影の基本的な約束事) 4)各チームに赤いボールとiPadが配られる 5)各チームに配布されたミッションカードを全員が引き、そこに書かれたミッションを実行 (クローズアップ、移動撮影、パン、などの撮影方法が自然とできるようなミッションになっている) 6)チームごとに決めた「赤いボールの気持ち」が映るように、工夫して撮影		ワークショップ1回 → メインプログラム		ワークショップ2回 → メインプログラム	○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ		メインプログラム → ワークショップ2回		メインプログラム → ワークショップ1回
	ワークショップ1回 → メインプログラム										
	ワークショップ2回 → メインプログラム										
○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ										
	メインプログラム → ワークショップ2回										
	メインプログラム → ワークショップ1回										

	⑤編集ワークショップ(40 分) 「みんなで撮った映像を 1 分に編集してみよう」 1) iPad に入れた編集ソフトの操作方法を教える 2) こどもたちが自分たちで編集をする <<1 日目の夜のうちにこども映画教室スタッフがこどもたちの作品を 1 本に編集。また、こどもたちの撮影した映像を素材としてまったく違う映画をスタッフが編集>> 2 日目【ワークショップ】(50 分) (※在校生数によっては 100 分) ①発表会「みんなの作品をつなげて 1 本になった映画をみてみよう」 ②各チームの作品を再上映し、赤いボールの気持ちがどんな風に映っていたか、他のチームの人たちが感想を言う ③作ったチームの人が撮影や編集で工夫したところや赤いボールの気持ちをどのように表現しようとしたのか伝える ④プロの編集バージョンをみんなで鑑賞 ⑤特別講師(映画監督など)からの講評 記念撮影		
児 童 ・ 生 徒 の参加上限人数	ワークショップ	30～100 名想定	
	メインプログラム	30～100 名想定	
メインプログラムの主たる指導者	別紙「【C 区分_赤いボール】出演者名簿」参照		
スタッフ人数 (1 公演あたり)	上記指導者を含め、17名	機 材 等 運搬方法	・宅配便 ・積載量 1t以下 車長 4.265mm 台数 バン 2 台
企画のねらい	①主体的な観客を育てる 映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。 だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。 そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。 そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。 ②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上 また、鑑賞のみではなく、鑑賞した映画に関連した映画制作を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックスなのか手持ち、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。 こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。 ③名作鑑賞による地域交流 ワークショップ1回目は、不朽の名作であるフランス映画『赤い風船』を鑑賞する。映画館が街中からなくなっている今、体育館が映画館に変わるということは、地域の大人も含めて		

体験してもらいたいことである。その鑑賞に『赤い風船』は最適であると考え。ほとんどセリフがないが、小学低学年でもストーリーが理解でき、テーマは信頼や友情、孤独、死といったものまで含まれ、その映像の美しさは大画面ならではのだいご味がある。世界中で愛され、こどもたちは息を飲んでスクリーンを見つめる、とても豊かな映画だ。

④映画を深く鑑賞する

鑑賞後のワークショップでは、『赤い風船』の内容を振り返るゲームをしながら作品を深く理解していき、最後に、現実世界では感情を持たないはずの「風船の気持ち」を想像してもらう。映画のなかで風船はしゃべったりしないのに、風船の気持ちがわかったのは、「あなた」がそう考えた、感じたからであることを伝える(主体的な観客)。

⑤映画ごっこではなく本当のクリエイションを目指す

メインプログラムでは、赤い風船から赤いボールに主人公を変え、生きていないボールを生き生きと映画の中で見せるにはどうしたらいいのかをこどもたちに考えてもらい、実際にそれをiPadで撮影する。いくつかのワークを事前にやることで、こどもたちは自主的にチーム内でコミュニケーションを図り始める。ボールの気持ちをどうしたら表現できるのか、仲間と悩み工夫し、協力し実際に手を動かしながら映画を内側から体験する。最後に自分たちで編集をして各チーム1分以内の映画に仕上げる。

⑥映画づくりには正解がないことを伝える

2日目に行なわれるワークショップ2回目では、メインプログラムで撮影したものを1本につなげて(こども映画教室のスタッフが前夜に編集する)、それを鑑賞する。他のチームの作品のボールの気持ちを想像し発表し、次に作った側もどんな気持ちを表現しようとしたか、どんな工夫をしたのかを発表する。これによりつくった側とみた側の違いがわかる。そこで答え合わせにならないように、どう受け取ってもいいのだということをしっかりと伝える。映画鑑賞も映画制作もどこにも正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。最後にプロの編集バージョンを見せることで、さまざまな編集の技を垣間見せる。

プログラム全体を通して伝えていきたいのが、学校の授業と違って、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。

こどもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、自分たちの手で作り上げた作品を観てもらうことで“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、作りたいように作っていい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。

【公演団体名 こども映画教室】

実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等	【ワークショップ】 会場: 体育館に持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加するこどもたちが座れるスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: マイク等の音響設備、椅子(こどもが座席に座る場合、地べたでも可) 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場	【メインプログラム】 会場: 体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたは持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加するこどもたちが座れるスペース、撮影してもいいスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: マイク等の音響設備。 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場 参加児童が多い場合、撮影に付き添う人員が必要となります。教員、保護者など
当日の所要時間(タイムスケジュール)の目安	【ワークショップ①+メインプログラム】 前日(準備:1.5～3 時間) 16:00 学校到着 先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル 当日 8:45 ワークショップ 1 回目:70 分) ※全体の流れ①②③ 9:55 休憩(10 分) 10:05 メインプログラム開始(140 分) ※全体の流れ①②③ 12:15 メインプログラム終了 ～17:00 上映機材搬出	【ワークショップ②】 (ワークショップ:50 分) 12:00 学校到着 機材設置&試写 スタッフ打ち合わせ 13:45 ワークショップ②開始(50 分) ※全体の流れ①②③④⑤ 14:35 ワークショップ②終了 ～17:00 上映機材搬出 ※学校ごとの在校生数により、チーム数が多い場合は、上映会は所要時間 100 分
※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の作成をお願いします。		
特別支援学校での実施における工夫点	特になし	

実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。
--------	------------------------



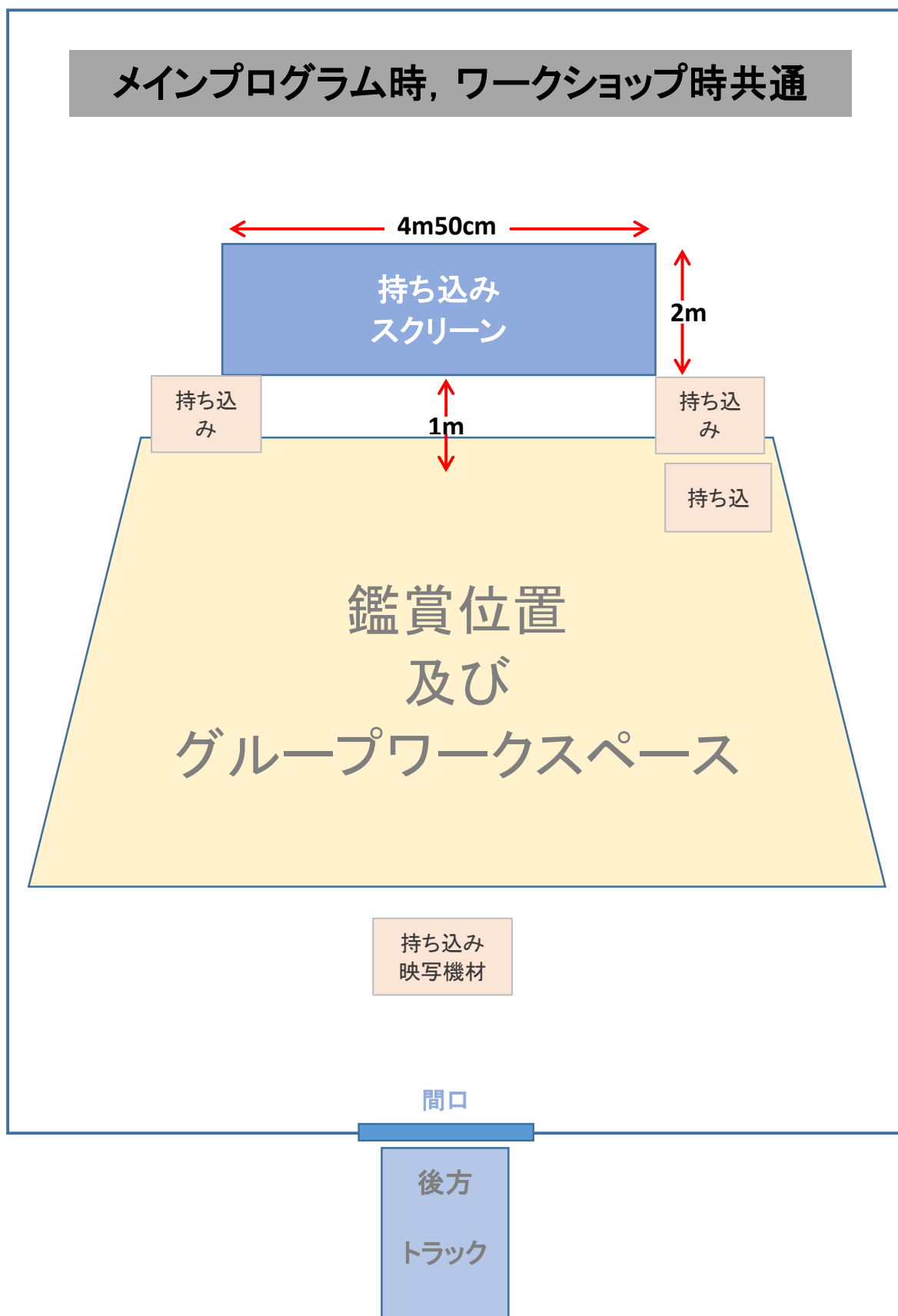
【令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K123	分野	メディア芸術	種目	映像	ブロック	K	区分	C区分
公演団体名	こども映画教室				制作団体名	一般社団法人 こども映画教室			

① 会場条件等についての確認

項目	応相談	必要条件等							
控室について	可	必要数 *	1室	条件	機材や貴重品を一時保管するため施錠できる教室が望ましいです。スタッフ11人が入れる広さ				
搬入について	可	来校する車両の大きさと台数 *			バン	2台	乗用車	1台	
	可	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン1台				
	可	搬入車両の横づけの要否 *			要、台車などをご用意いただけましたら横付けの要否相談可				
	可	横づけができない場合の搬入可能距離 *			100m以内 ※これ以上でも台車等をご用意いただければ相談可				
	可	搬入経路の最低条件			なるべく屋根のある経路希望(相談可)				
		理由							
	—	設置階の制限 *			問わない				
	可	搬入間口について 単位:メートル	幅	2m(相談可)	高さ	2m(相談可)			
WSについて	可	参加可能人数			100名まで(多少の増員は相談可)				
	可	学年の指定の有無 *			あり	指定学年 *	小学校3年生以上		
	可	所要時間の目安 単位:分			WS① 70分 WS② 50分(②は人数が多ければ相談ください)				
メインプログラムについて		会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安をご参照ください。				
	可	鑑賞可能人数			『赤い風船』の映画鑑賞は、だれでも鑑賞可能です(保護者・地域の皆さんも鑑賞可)				
	可	舞台設置場所 *			ステージ上への設置・フロアへの設置ともに対応可能				
	可	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	450cm	奥行	200cm	高さ	370cm	
	—			舞台袖スペースの確保 *		不要			
	—	体育館の舞台を使用する場合の条件		舞台袖スペースの条件 *					
	可			緞帳 *	もしあれば使用希望	バトン *	不要		
	不可	遮光(暗幕等)の要否 *			要	理由	プロジェクターで映像を投影するため		
	—	ピアノの調律・移動の要否		指定位置へのピアノの移動 *	不要	※指定位置は会場設置図面に御確認ください。			
	—			ピアノの事前調律 *	不要				
	可	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可				
	不可	公演に必要な電源容量			6A	※主幹電源の必要容量			
	その他特記事項								
	可	照明の準備の都合上、巡回確定後に体育館の天井照明が水銀灯かLEDかをお知らせください							
	可	映画撮影の時に、ロケ地として学校敷地内、学校近隣等を使用希望です。巡回決定後にご相談させていただきます。							

メインプログラム時, ワークショップ時共通



搬入間口について	幅	2m程度	高さ	2m程度
搬入車両の横づけの可否	要、台車などをご用意いただけましたら横付けの可否相談			
横づけができない場合の搬入可能距離	100m以内 ※これ以上でも台車等をご用意いただければ相談可			

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

実施日程	実施校名	地元主催者
2019年7月1日(月)	須崎市立新荘小学校	高知県教育委員会
2019年7月2日(火)		
2019年7月4日(木)	宿毛市立橋上小学校	高知県教育委員会
2019年7月5日(金)		
2019年10月29日(火)	西条市立三芳小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 西条市教育委員会
2019年10月30日(水)		
2019年10月31日(木)	今治市立鴨部小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 今治市/今治市教育委員会
2019年11月1日(金)		
2019年11月11日(月)	美馬市立江原北小学校	徳島県教育委員会 美馬市教育委員会
2019年11月12日(火)		
2019年11月14日(木)	砥部市立広田小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 砥部市/今治市教育委員会
2019年11月15日(金)		

知ってますか?～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

こども映画教室とは…

15年前に始まった「こども映画教室」がめざすのは「こどもと映画のアカリミライ」。多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くのこどもに届けます。

こども映画教室が大事にしていることは2つ。1. 大人は手出し口出しないこと。2. 一流の映画人と出会うこと。

大人がこどもを信じ自主性を尊重することでこどもには自尊心が生まれ、真剣な大人との出会いはこどもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。

「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちがこの活動に共感し特別講師を引き受けています。

一般社団法人 **こども映画教室**

〒158-0084 東京都世田谷区東玉川1-32-23
phone & fax : 03-6313-1641

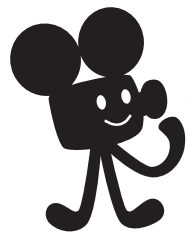
http://www.kodomoeiga.com
info.kodomoeiga@gmail.com
https://www.facebook.com/kodomoeiga/



「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



映画鑑賞＋ワークショップ 「生きてないものが動く！」 みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

プログラム紹介

※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。

①映画を“観る”

映画『赤い風船』は世界三大映画祭の一つである第9回カンヌ国際映画祭短編映画部門で最高賞のパルム・ドール第29回アカデミー賞脚本賞ほか数多くの賞を受賞した今もなお価値が失われない名作です！！

1950年代のパリを舞台に男の子と風船の友情を描いたこの小さな映画は、世界中で愛されています。この映画に出会えてよかったと思える美しい名作をみんなで鑑賞します。

『赤い風船』(1956年／フランス映画／36分)
監督・脚本：アルベール・ラモリス

おはなし

ある日、街角で赤い風船をみつけた男の子。
なんと風船は手をはなしても、
まるで生きているかのように男の子のあとをついてきます！

②映画について“おしゃべりする”

鑑賞した『赤い風船』について、どんな人が出ていた？

どんな音がした？など、みんなでおしゃべりしながら振り返り、
映画について感じたことや考えたことを言葉にします。

※本公演ではiPadを使用して撮影します

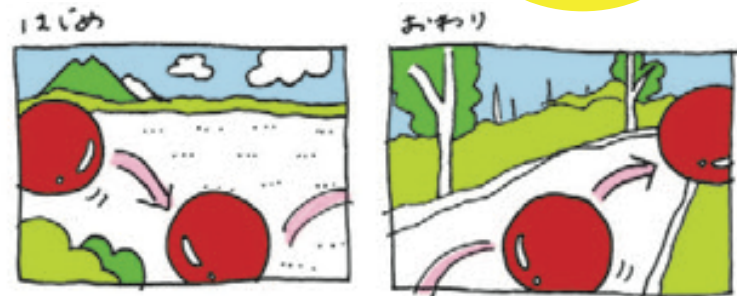


③映画を自分たちで“撮る”

チームに分かれ、赤いボールを主人公にした短い映画をiPadで撮影します。
ストーリーも撮り方もみんなで考えます。

ルールはひとつ！

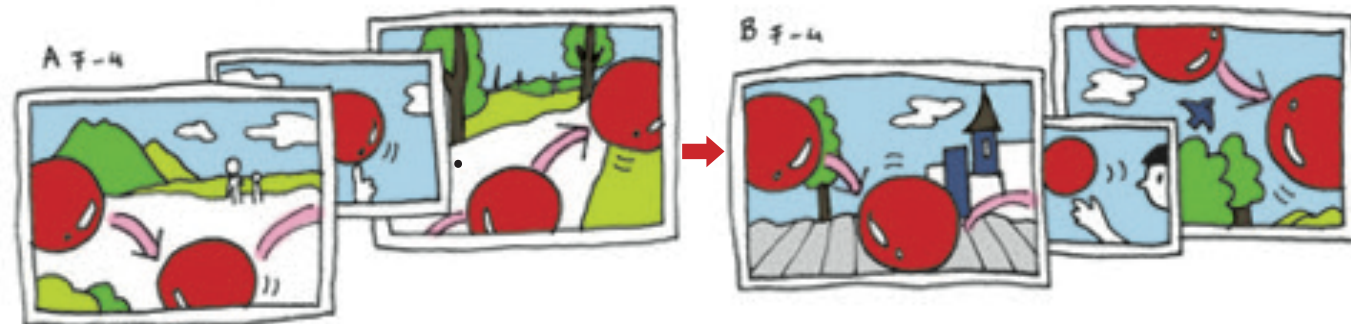
ボールはかならずフレームの外から
入ってきて、最後はフレームからでていきます。
おもしろそうな場所を見つけて撮ってみましょう。



④自分たちの映画を“観る”

それぞれのチームが撮った映画を1本につなげてみると？！

なんとAチームの映画のおわりにフレームの外に飛びだしたボールが
Bチームの映画の中にポンとはいってきて、次にはCチームの映画の中に！！
まるで赤いボールがみんなの知っている場所を冒険していくように見えます！



特別講師プロフィール
諏訪 敦彦(映画監督)

映画監督、大学教授(東京藝術大学)。
1997年に公開された『2/デュオ』で長編映

画監督デビューの後、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、
第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一
致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる
『不完全なふたり』(日仏合作)がロカルノ国際映画祭において審
査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後もフラン
スを活動拠点とし、オムニバス映画『パリ・ジュテーム』(2006年)
への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』
(2009年)がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。
2018年、8年ぶりの監督作品『ライオンは今夜死ぬ』(2017年)
が公開された。最新作は『風の電話』(2020年初春公開予定)

ワークショップスタッフ

【特別講師】
諏訪 敦彦(映画監督)

【プロデューサー】
土肥 悦子

【ファシリテーター】
深田 隆之 奥定 正掌 今橋 貴
小林 和貴 糠塚 まりや 大川 景子
飯岡 幸子 西原 孝至 上田 謙太郎
太田 達成 中村 隆一

【テクニカルマネージャー】
酒井 貴史

【アシスタントプロデューサー】
浅見 孟